

## 木村秋則 自然栽培実践塾 実践レポート NO. 8

### NO. 8 稲育苗培養土の温度計測 26日目

3月15日に、稲育苗培養土の温度を計測してきました。土を作成してから26日後の経過をレポートします。



32.7℃です。切り返しより7日経っています。発熱はしているのですが、思ったほどではないようです。



他にも温度を計測し、分析してみます。上から37.3℃、38.8℃、39.7℃、39.6℃でした。レポートNO. 6では、山の一番上部の温度と2番目の温度差は4.3℃ありましたが、今回は1.5℃ほどです。最も温度が高いところとの差も2.4℃ほどと、平均して発熱している印象です。



山の下のほうまで測ってみました（写真左側が山上部）。上から38.3℃、35.7℃、30.6℃、23.5℃でした。下から20センチ付近から温度が低下しています。今回は計測ポイントを前回より多少高くしてあり、下から10センチ位の所にあります。



山の最上部の表面付近と、より中心付近を測ってみました。表面付近と、その10センチ程下では2.9℃差があります。中心部のほうが高い傾向は間違いのないようです。

切り返す前は46.9℃まで確認しているの、切り返す前より山全体の温度は低下傾向のようです。この日は他にも何ヶ所か測りましたが、山全体の中で高い場所でも40℃前後で、とても70℃に到達していそうな雰囲気はありません。



ビニールをはいでみました。ビニールシートの裏面は、水滴がびっしりとついています。土からは前回と同じく甘酒のような匂いがします。土は、白い菌が山全体を制圧しているかのような勢いです。山の下側には、ブルーチーズの様な青緑のカビもちらほら見えました。

土には、白い菌が生えている所と生えていない所があります。その差は何が原因か？これが一つのヒントになる気がします。



中を割ってみました。白い菌は、土がふわっとしている所に生えていて、土が固まっている所には生えていない様に見受けられます。

思い返せばあまり空気のことについては考慮に入れてなかった気がします。発熱は好気性菌の働きが主だということですし、土に空気を含ませる事は好気性発酵につながるはずですが、切り返しの時、もう少し細かく砕きふわっと盛るとか、やり方があったかもしれません。

土は市販の工作用の粘土くらいの固さで、水分はまだあるが、切り返し直後よりはハッキリと減っている印象です。



羽咋市の気温はまだまだ低い状況です。そこで最後の手段、毛布を足してみました。これでもう少し推移を見守ろうと思います。温度にあまり変化が見られないなら、何か根本的な見逃しがある気がしています。